



初めて挑んだ短歌甲子園で準優勝を喜ぶ久慈東の(左から)大下美帆さん、中公ルミナさん、住久花梨さん=20日、盛岡市・盛岡劇場

久慈東が準優勝

盛岡で短歌甲子園 下館一(茨城)2度目V

第12回全国高校生短歌大会「短歌甲子園2017」(実行委主催)最終日は20日、盛岡市松尾町の盛岡劇場で団体、個人の決勝まで

行い、団体は久慈東が準優勝した。初出場の久慈東(3年)が大会で最も優れた歌に選ばれたが、新風を巻き起こした。団体決勝の題は「喜」。久慈東、下館一の両校が自身の体験や多感な思春期の

複雑な感情を表現した。1で迎えた大将戦は、両校とも決勝進出の喜びを素直に詠み込んだ歌を披露。2・3の僅差で下館一に軍配が上がった。久慈東文芸部の3人は31音にさまざまな思いを託せる短歌に魅了され、昨秋から詠み始めた。先鋒、住久花梨さん(3年)は「できれは優勝したかった」と残念そう。中堅、大下美帆さん(同)は「緊張して思いを伝えきれなかった」と悔

の優勝。個人戦では福岡女学院(福岡)1年中村朗子さんが「長雨に濡れた葉の花のような、ふるえる君の手に触れたい」で最優秀作品賞に選ばれた。盛岡四は審査員特別賞を受賞。決勝トーナメント1回戦で仙台(宮城)に1-2で敗れた。ほかに入賞した団体・個人は次の通り。

△団体 ③八戸 青森学院 盛岡 青森
△個人▽優秀作品賞 木村 菜希(青森・三沢3年)▽話題作品賞 本間健汰(宮城・小牛田農林3年)
▽石川琢木賞 松長諒(神奈川・横浜翠嵐2年)

1. 次の文章は、短歌についての説明です。□に当てはまる数を入れて、短歌の説明文を完成させなさい。

短歌は、およそ千三百年もの昔から人々に愛され続けてきた日本独自の詩の形です。□・□・□・□・□というリズムカルな音数をもつ□音を基本としています。

2. 記事では、特別審査員の歌人小島ゆかりさんが、大会で最も優れた短歌として賞を贈った短歌も紹介されている。その短歌はどれか、記事から抜き出さなさい。

3. 久慈東高の準優勝短歌のうち、住久花梨さんが詠った短歌の□には、「驚きや感動で、はっとすること」を表す言葉が入ります。当てはまる言葉を書きなさい。

4. 久慈東高の大下美帆さんが詠った短歌はあるスポーツの試合が終わった情景を詠ったものです。そのスポーツは何か英語(アルファベット)で書きなさい。

5. 短歌甲子園では歌人の名前の付いた賞が授与されている。その歌人の名前を漢字で抜き出さなさい。また、その歌人の生まれた都道府県を漢字で書きなさい。

歌人の名前…

生まれた都道府県名…

6. 優勝短歌を声に出して、読んでみましょう。

7. あなたも、短歌甲子園と同じく題を「喜」で、短歌を作ってみましょう。

久慈東高の準優勝短歌

合格を告げる板見て
私の瞳に喜びの色
住久花梨

打ちとりて
最後のアウトとれたとき
ゲームの音で喜ぶ
大下美帆

隣には
春色たたえた友がいる
きつとこれこそ幸せなんだ
中公ルミナ

下館一高(茨城)の決勝短歌

振り向いて
君に喜びを言えたら
鏡は十五の私をうつす
林里美

喜びも
悲しみさえもとりあえず
母より先に君に言いたい
袖山空大

いのちとは
激動するもの吠えるもの
喜ぶために生まれてきたの
大幡浅黄